

月曜礼拝の法話『どうして鏡に姿が映るの？』

鏡に自分の姿が映っているのを見るのは便利ですね。でも変ですよね。ほかのものだと、見ている私の姿は映らないですよ。鏡みたいな平らな面のある形をしているもの、例えばドアを見たらドアが見えます。ドアを見ている自分の姿は見えないです。壁もそうです。お空もそうです。

鏡は鏡を見ている私の姿を教えてくれます。私が元気な時は元気な姿を知らせてくれるし、疲れているときは疲れている顔を見せてくれますから。

鏡とお話しできないから、鏡が何を考えてそうしているのか聞けないので、想像してみましょう。さっき例えにだしたドアとか壁とか空とか、それを見ている私の姿は見えなくて、ドアとかの姿が見えます。きっとドアは、ドアを見ているあなたより、ドア自身を見てほしいのではないか。絵本もそうですね。絵本を読んでいるあなたより、絵本に描かれている絵を見てほしがっていると思います。目立ちたがり屋さんですね。

世の中のほとんどのものは目立ちたがり屋さんなのでしょう。そんな“自分が一番！”というひとがたくさんいる中で、鏡さんは恥ずかしがり屋のようですね。恥ずかしがり屋でなければ、相手に対して“どうぞ”という優しいひとなのかも知れませんね。